

株主の皆様へ



代表取締役社長

黒田 浩史

■ごあいさつ

株主の皆様には、格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

また、東日本大震災により被災された皆様に、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

ここに当社第67期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

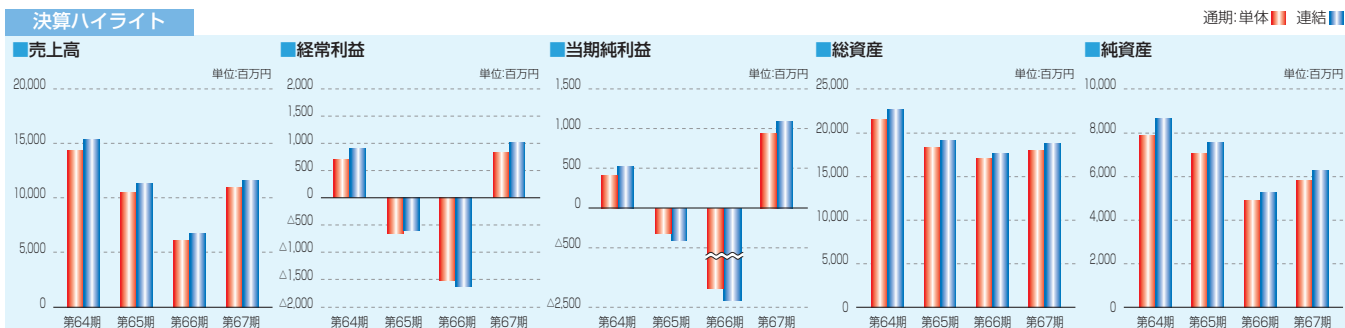
株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

■当期の概要

当社グループの当期における受注は、全般的に活発な需要が継続し、前年同期を大幅に上回る水準となりました。また、生産能力の拡充に努めた結果、売上は順調に増加し、前年同期を大幅に上回る水準となりました。さらに、構造改革等を推進した結果、利益率・生産性の改善が進み業績の大幅な回復を実現することができました。期末に発生した東日本大震災の業績への影響は幸い軽微に留まりました。

その結果、当社グループの当期の業績は、受注高は13,186百万円（前年同期比5,505百万円、71.7%増）、売上高は11,682百万円（前年同期比4,908百万円、72.5%増）となりました。また、利益



面につきましても経常利益1,015百万円（前年同期は経常損失1,637百万円）、当期純利益1,092百万円（前年同期は当期純損失2,420百万円）の結果となりました。3期振りの黒字回復を果たすとともに、当初の業績予想を上回ることができました。これを受けて、期末配当につきましては、1株当たり3円と復配させて頂きました。

今後も、中長期的成長戦略に基づいて、経営資源の重点配分と構造改革、マーケティング手法による新市場の開拓と海外展開の加速、人材育成と技術基盤の強化ならびに新商品の開発、改革改善を通じた製造基盤の強化、財務基盤の強化と景気変動に対する抵抗力の強化等を着実に実行し、企業体質の強化に努め、さらなる業績の向上に努めてまいります。株主の皆様には何卒ご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。

■来期の見通し

当社グループ主要商品の市場動向は、海外からの需要は依然旺盛ですが、国内需要は、今後復興需要期待があるものの、大震災の影響で目先軟調に推移する懸念があります。また、労務費をはじめ前年度抑制していた諸経費の増加が見込まれます。

そのような中で、来期の業績については見通しが難しい部分がありますが、上期については期初注残と旺盛な海外需要、生産拡充の効果が期待できること、下期については復興需要の高まりもあり、一時的調整局面はあるとしても市場環境は基本的に大きな下振れはないと予想されることから、業績は引き続き堅調に推移すると見込んでおります。来期の連結業績は、売上高13,500百万円、営業利益960百万円、経常利益1,100百万円、当期純利益1,030百万円を予想しております。

■ 駆動システム

主要顧客である半導体、液晶、電子業界はリーマン・ショック後、急速な立ち上がりを示し、受注は第1四半期まで過去のピークを超える勢いでありました。第2四半期以降調整局面もありましたが、12月以降再び上昇局面に入ってきました。

このような受注状況を背景に、平成20年8月竣工のかずさアカデミア工場をフル稼働すべく、2次3次の増産体制を敷くことでこれに対応してきました。

当セグメントの受注高は5,862百万円（前年同期比2,854百万円、94.9%増）、売上高は5,331百万円（前年同期比2,980百万円、126.8%増）、営業利益は845百万円となりました。

売上高 **5,331** 百万円



海外展開

平成22年6月より営業を開始した韓国黒田精工株式会社は、半導体関連を中心に活況を呈している韓国駆動システム市場で初年度より順調に売上を伸ばしています。また、平成23年6月より平湖黒田精工有限公司へマーケティング要員を派遣し、中国市場の更なる開拓を目指します。

■ 金型システム

精密プレス金型は、受注が先行してそれに売上が追従する形で平成21年初頭より順調に回復軌道に乗っています。当期は、毎月の動きには多少の浮き沈みがあるものの、通期では受注・売上ともに順調な伸びを示しました。日本メーカーの海外生産用の金型需要が新型、更新型ともに底支えとなっています。ハイブリッド自動車搭載用モーターコアは底堅く推移しました。携帯電話用の振動モーターコアは市場の動向を反映したスマートフォン向け新型コア需要が伸びています。

当セグメントの受注高は3,196百万円（前年同期比838百万円、35.5%増）、売上高は2,816百万円（前年同期比718百万円、34.2%増）、営業利益は50百万円となりました。

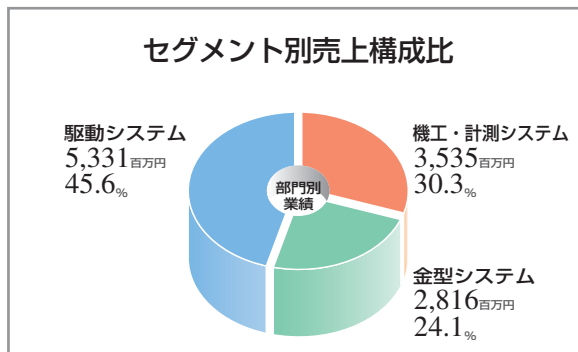
売上高 **2,816** 百万円

Glue FASTECシステム

Glue FASTECシステムは、薄板の積層固着に接着剤を採用したことにより、薄板間の絶縁状態を保ちながら金型内での自動積層を可能にした画期的なシステムです。



セグメント別売上構成比



(注) 当期より報告セグメントを従来の精密機器部門、システム機器部門の2部門から、駆動システム、金型システム、機工・計測システムの3部門に変更いたしました。

■ 機工・計測システム

昨年7月に、事業面でのシナジー効果の追求、技術基盤の強化、業務運営の効率化等を狙いとし、従来の機器、工作機械、精機システムの3事業部と健康医療機器グループを統合し、新たに発足した「機工・計測システム事業部」を中心とする当セグメントの受注高は4,127百万円（前年同期比1,812百万円、78.3%増）、売上高は3,535百万円（前年同期比1,209百万円、52.0%増）、営業損失は38百万円となりました。

売上高 **3,535** 百万円

■ ツーリング・ゲージ

ツーリングの主要顧客である自動車関連業界は、国内販売は低調でありましたが海外販売が好調に推移したため、その影響で工作機械メーカーや部品メーカーの受注増に伴う生産増に牽引され、ツーリングの受注・売上は大きく回復伸長しました。ゲージは国内需要が回復傾向を示したものの、海外では油井管用APIゲージの受注減により前年同期比微増の結果に終わりました。

エコセーバ KEP-V

ツーリング技術と空気圧技術の融合により、より細かく均一なミストを加工ポイントに供給、環境に優しい「セミドライ加工」をアシストする「エコセーバ」をモデルチェンジいたしました。従来の機能に加え、水溶性切削液の使用も可能とし、より幅広い分野におけるセミドライ加工の可能性を高めました。



■ 工作機械

工作機械業界の受注は、アジア向けを中心とした輸出好調に支えられ前年同月比15ヶ月連続で増加しており、順調な回復傾向を示しています。

当社の工作機械事業も、主要顧客である国内金型産業向け需要の低迷にもかかわらず大型機投入による受注確保、中国金型市場向けの大口物件やLED生産関連機器メーカー向けの特殊研削盤、またレンズ磨き機のまとまった商談契約等で、受注・売上とも前年同期比で大幅な伸びを確保することができました。

精密平面研削盤 GS-95CPF

既存のPFシリーズをスケールアップ、当社最大のテーブル作業面積900mm×500mmを有し、自社製ボールねじを搭載した従来機の高剛性・高精度仕様を踏襲、高効率加工を実現します。豊富なオプションを取り揃え多様なニーズにお応えいたします。



特殊研削盤

長い歴史を持つ研削盤製造技術のノウハウを活かし、刃物研削用の特殊機や医療器具用の研削盤等、自動車、電気・電子部品、航空機、医療、その他様々な分野のお客様に総合的ソリューションをご提案して参ります。



「KSGI-130 特殊対応機」

通常は単純内径穴加工のみの内面研削盤を、2スピンドルにし、反転精度の高いリニアモーター駆動にすることによって、小径であってもテーバー等の異形加工を可能にしました。

連結財務諸表

精密測定装置他

超精密表面形状測定装置（当社商品名：ナノメトロ）関連では、増加に転じた半導体、FPD関連業界等、主要顧客層からの成約案件に対応した物件を売り上げることができ、損益を改善することができました。

ナノメトロ450TT

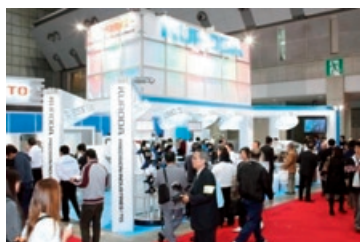
半導体材料である次世代大口径φ450mmシリコンウェーハの平坦度検査装置を世界に先駆けて“ナノメトロ450TT”として市場に投入し、商用機としての生産を開始いたしました。平坦度やそり形状測定の評価・解析等、幅広いニーズに対応しております。



トピックス

JIMTOFに25回連続出展

第25回日本国際工作機械見本市（JIMTOF2010）に“Machine tool& Measurement～加工から計測まで”をコンセプトに出展し、1962年の第1回より25回連続出展のメーカーとして表彰されました。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成23年3月31日現在	平成22年3月31日現在
資産の部		
流 動 資 産	9,043	7,448
固 定 資 産	9,770	10,267
有 形 固 定 資 産	7,620	8,216
無 形 固 定 資 産	119	127
投 資 そ の 他 の 資 産	2,030	1,923
資 産 合 計	18,814	17,716
負債の部		
流 動 負 債	6,435	5,405
固 定 負 債	6,082	7,050
負 債 合 計	12,518	12,455
純資産の部		
株 主 資 本	4,694	3,580
資 本 金	1,875	1,875
資 本 剰 余 金	1,451	1,451
利 益 剰 余 金	1,374	261
自 己 株 式	△6	△6
その他の包括利益累計額	1,447	1,532
その他有価証券評価差額金	226	264
土 地 再 評 価 差 額 金	1,314	1,335
為 替 換 算 調 整 勘 定	△93	△67
少 数 株 主 持 分	154	146
純 資 産 合 計	6,296	5,260
負 債 ・ 純 資 産 合 計	18,814	17,716

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成22年4月1日～平成23年3月31日	平成21年4月1日～平成22年3月31日
売 上 高	11,682	6,774
売 上 原 価	8,743	6,359
売 上 総 利 益	2,939	414
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	2,090	1,945
営 業 利 益	848	△1,530
営 業 外 収 益	463	274
営 業 外 費 用	296	381
経 常 利 益	1,015	△1,637
特 別 利 益	33	5
特 別 損 失	209	482
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	839	△2,113
法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税	45	41
法 人 税 等 調 整 額	△304	258
少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益	1,099	-
少 数 株 主 利 益	6	5
当 期 純 利 益	1,092	△2,420

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成22年4月1日～平成23年3月31日	平成21年4月1日～平成22年3月31日
営 業 活 動 による キャッシュ・フロー	1,239	△232
投 資 活 動 による キャッシュ・フロー	△100	△168
財 務 活 動 による キャッシュ・フロー	△1,505	758
現 金 及 び 現 金 同 等 物 に 係 る 換 算 差 額	△12	△2
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 増 減 額	△378	354
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 首 残 高	3,667	3,312
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 末 残 高	3,289	3,667

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成23年3月31日現在	平成22年3月31日現在
資産の部		
流動資産	8,160	6,759
固定資産	9,819	10,341
有形固定資産	7,322	7,873
無形固定資産	118	125
投資その他の資産	2,378	2,342
資産合計	17,979	17,101
負債の部		
流動負債	6,217	5,293
固定負債	5,942	6,891
負債合計	12,159	12,185
純資産の部		
株主資本	4,278	3,316
資本金	1,875	1,875
資本剰余金	1,451	1,451
利益剰余金	958	△3
自己株式	△6	△6
評価・換算差額等	1,541	1,600
その他有価証券評価差額金	227	264
土地再評価差額金	1,314	1,335
純資産合計	5,819	4,916
負債・純資産合計	17,979	17,101

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成22年4月1日～平成23年3月31日	平成21年4月1日～平成22年3月31日
売上高	11,006	6,164
売上原価	8,349	5,954
売上総利益	2,657	210
販売費及び一般管理費	1,903	1,761
営業利益	753	△1,550
営業外収益	357	319
営業外費用	273	281
経常利益	838	△1,512
特別利益	33	6
特別損失	209	481
税引前当期純利益	662	△1,987
法人税、住民税及び事業税	18	17
法人税等調整額	△297	267
当期純利益	941	△2,272

(注)記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

会社の概要

(平成23年3月31日現在)

商号	黒田精工株式会社
本店	神奈川県川崎市幸区下平間239番地
創業	1925年(大正14年)
資本金	18億75百万円
従業員数	441名

連結対象会社の状況

(平成23年3月31日現在)

連結子会社	持分法適用関連会社
クロダインターナショナル株式会社 クロダプレジジョンインダストリーズ(M)(マレーシア) 平湖黒田精工有限公司(中国) 永昇電子株式会社 韓国黒田精工株式会社	株式会社ゲーシング 日本金型産業株式会社 クロダニューマティクス株式会社 株式会社TGK

当社グループの主要な事業

セグメント	主要製品
駆動システム	精密研削ボールねじ、転造ボールねじ、ボールねじアクチュエータ、XYステージ
金型システム	積層精密プレス型、モータコア型、精密金属プレス製品
機工・計測システム	ツーリング、保持工具、ゲージ、平面研削盤、超精密鏡面研磨装置、超精密表面形状測定装置、電子機器、医療機器、コンプレッサ

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月下旬	郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	毎年3月31日	(電話照会先)	電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
定款・株主総会規則	電子公告により、当社のホームページに掲載します。 http://www.kuroda-precision.co.jp/ ただし、やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。		取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

株式に関するお手続きについて

○証券会社等の口座に記録された株式	
お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
郵送物等の発送と返戻に関するご照会	株主名簿 管理人 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL. 0120-78-2031(フリーダイヤル)
支払期間経過後の配当金に関するご照会	
株式事務に関する一般的なお問合せ	
上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

○特別口座に記録された株主様の株式に関する各種お手続きに関しましては、中央三井信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、下記へお問合せください。

お問合せ先 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

- [手続き書類のご請求方法]
- 音声自動応答電話によるご請求 0120-87-2031 (フリーダイヤル)
 - インターネットによるダウンロード http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

黒田精工株式会社

本社 / 〒212-8560 神奈川県川崎市幸区下平間239番地
TEL / 044-555-3800(代表) FAX / 044-555-3524
http://www.kuroda-precision.co.jp/

